

NEWSLETTER

第 31 号

新年明けましておめでとうございます。旧年中のご支援に心より感謝申し上げつつ、ニュースレターをお届けいたします。



2020年1月



前号でお伝えした通り 2019 年、東ティモールは住民投票 20 周年を記念しました。左上の写真は同年 8 月 26 日に開催された“東ティモール真実・正義・和解の道程”と題されたセミナー。スピーカーの一人、マヌエラ・ペレイラさんはインドネシア時代の人権侵害犠牲者、特に女性たちに対する正義が実現していない、と政府を強く批判。左下の写真は、インドネシア時代に軍によって家族から引き離されインドネシアに連れていかれた、いわゆる **stolen children** (盗まれた子どもたち)の一人 **Martina** さん(中央ピンク色の洋服の女性)。名前を変えられ、宗教もカトリックからイスラム教に変えられてしまったため、彼女の家族探しは困難を極めました。幸い **facebook** を通じて肉親が見つかり、先頃、40 年振りに祖国の土を踏みました。

このような東ティモール人の“子ども”は 4000 人に上ると言われていますが、今までに、人権団体の支援で家族と出会えたのはわずか 80 名に過ぎません。



2019 年 8 月の記念行事のもう一つは、東ティモール政府とオーストラリア政府間で批准された領海線条約文書の交換式。この領海線問題は古くポルトガル時代にも遡るものですが、インドネシア占領時代から特にオーストラリアによるティモール海における石油強奪が大きな問題となっていました。右の横断幕は東ティモール青年たちによる抗議行動の一環。幸い、東ティモール政府側による主張“国境線は国際法に則って、両国の中間に敷かれるべき”が聞き入れられ、両国間で領海線条約が結ばれました。



《イベントの数々》

♪ 今年も3名受賞！日本語スピーチコンテスト

日本大使館、国立大学共催の日本語スピーチコンテストが今年も行われ、当日本語教室からの参加者3名が受賞。ちなみに当教室からの参加者のスピーチのテーマは下記の通り。“カチャーショック” “日本語” “夢” “科学技術の教育への影響” “先生の仕事への感謝”。昨年日本で日本語を学んだゼリアさんは、特別参加者（審査対象外）として東ティモールの教育と題したスピーチを行いました。右の写真は初級学習者部門第二位に選ばれたロジェリオさん。



♪ ファトマ村を練り歩く聖フランシスコ・ザビエル像

バザルテ教会の守護の聖人は聖フランシスコ・ザビエル。日本にキリスト教を伝えた聖人としても有名ですね。祝日の12月3日は盛大なミサが祝われますが、その準備期間中は毎日、バザルテ郡内のすべての教会、聖堂、修道院、いくつかの家庭を経巡って、聖人の像が運ばれ、熱心な祈りが捧げられます。



♪ エコロジーグループ BEHAM

BEHAM が Dili 市中心部にゴミ収集場を作りました。きれいじゃない！って？前は道路に溢れて車の通行を塞いでいました！



♪ 日本人大学生グループ HaLuz

HaLuz の皆さんが今年は折り紙の手裏剣を教えてくださいました。ゼリアさんも助手として活躍。



♪ ご支援ありがとうございます！

日本カトリック海外宣教者を支援する会が Fahilebo にある当会幼稚園に遊具を寄贈してくださいました。



♪ 2019 年クリスマス

ミサ



フリースクールの子どもたちも参加



横浜金沢みどりロータリークラブが今年も図書蔵書を寄贈してくださいました。

主よ、我々のかたくなで自己中心的な心を和らげ、愛の道具としてください。世界中のすべての子供たちに、見捨てられた人々に、暴力を受けた人々に笑顔を与えてくださいますように！
(フランシスコ教皇 2019 年クリスマスメッセージ)



《いつもの活動から》

♪ 聖ラファエラ女子寮



今年も 20 名の高校生・大学生を受け入れています。担当は中央赤のシャツの Sr.ドミンガス

♪ 聖ラファエラの幼稚園



幼稚園の卒園式だって角帽かぶっちゃうんです！すごいでしょ！



♪ 聖ヨハネ・プリト小学校

小教区立小学校ですが運営は当会。現在 4 名のシスターと 1 名の志願者が教えています。

♪ 聖ラファエラ子どもの家（低栄養児施設）



毎週 6 組の親子を招き、（月）～（木）まで、午前 9 時から午後 1 時まで、栄養改善の養成を施しています。左の写真は様々な食品を 3 種類の基本的な栄養素に分類するトレーニング。栄養素について一度も学んだことがない母親たちがほとんどなので、驚きながらもその重要性を悟っています。右の写真はローカルな食品を使って栄養豊かな食事を作るクッキング・クラス。学んだからと言って、毎日の食卓にこうした栄養豊かな食事が出せるわけではないので、教える方もジレンマに陥ることが少なくありません。それでもどこかで何かを始めることができ、子どもたちの成長に資することができるよう、息の長い活動をしていきたいと思っています。ご支援に心から感謝しつつ。

< JICA 栄養プロフィールより >

（東ティモールは）慢性・急性のいずれの栄養不良においても、WHO が国際的に定義する「非常に深刻な状況」にあてはまり、アジアで最も問題の深刻な国の一つ。東ティモールのこどもの貧血率はいまだ公衆衛生上深刻なレベルにある。

♪ 好恵さんありがとう！！



2 年間、青年海外協力隊員として国立リハビリセンターで働かれた堀内好恵さん。

当日日本語教室でも上級クラスを担当してくださいました。昨年 12 月、派遣期間修了で日本に帰国されました。様々にお働きくださり、本当にありがとうございました！

《ここで、長年東ティモールと連帯しておられる友人たちの活動をご紹介します》

♪ CDIC・地域国際活動研究センター

名古屋にある NGO で杉本正次さんというステファニ神父の友人が主宰。2002 年から東ティモールを支援。活動の一つは Maumeta 村の植林。JICA の支援を受けて数年かけてご覧の通りの豊かな林の実現に成功！



♪ 青山森人さんによる算数教室

インドネシア時代から東ティモール解放闘争に連帯して来られ、独立後も度々、当地に滞在されている青山森人さん（写真中央。東ティモールについての著書多数）。当地の子どもたちは特に算数が苦手中の苦手。そこで、最近、Dili 市内で算数教室を開設。子供たちの輝く目をご覧ください。

♪ ステファニ・レナト神父の墓参

2003 年東ティモールで不慮の死を遂げられたステファニ神父。彼の活動を

日本から支援しておられた“東ティモール子ども募金”の有泉道子さんらが昨年 9 月にも、Atsabe にある神父のお墓を訪れ、祈りを捧げられました。写真右の中央の神父は名古屋教区の早川努神父。その左は神父の車に同乗して亡くなった刈刈さんの息子のベント神父。



同募金奨学生だったアナリスさん。現在、入管職員として働いています。



《インドネシア便り》

毎回インドネシアに派遣されたシスターたちの活動や生活をご紹介しますが、今回は地球温暖化にも因む



ニュースです。左の写真はシスターたちが働いている西カリマンタン、ペラン地区の泥炭森林の火災現場。その他にも近くのケガンでも人災天災による森林火災が多発しているそうです。右の写真は修道院で雨水を集めている 2 人の東ティモール人シスター。東ティモールとは比較できない広大なカリマンタンでの彼女たちの健闘を祈っています。

《栄養プログラムのための畑から》



赤ほうれん草を大きく成長させています。種がとれるように！真ん中の花の中です。



【編集後記】

2019 年、日本はたくさんの災害に見舞われました。被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。2020 年は、世界も日本も、平和で安心して暮らせる年となりますように！皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます

ラファエラ東ティモール募金事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 3-8-5

聖心侍女修道会 Sr.日高和子

tel:03-3442-9201

email:kazukohidaka08@yahoo.co.jp